

赤石病院 血管外来開設にあたって

2023年4月より新たに血管外来を開設することとなりました。血管疾患は放置すると生命にかかわる事態となることがある一方で、専門医が少なく診断や治療に難渋する事も大きな問題と考えています。赤石病院血管外来では専門医が診察に当たり、大動脈瘤や末梢動脈疾患のみならず腹部内臓動脈疾患や静脈疾患にも幅広く対応していきます。血管疾患でお困りの場合や、診断に至らない場合でも血管疾患が疑わしい場合にはお気軽にご相談ください。

また血管外来開設に合わせて赤石病院では下肢静脈瘤血管内治療実施施設の認定を受け、多賀城・塩釜地区で唯一下肢の静脈瘤に対する血管内治療が実施可能な病院となっております（カテーテル治療やレーザー治療とも呼ばれます）。仙台や遠方まで出かけることなく地元での治療が可能ですのでいつでもご相談ください。患者さんの希望に沿って日帰り手術でも入院手術でも対応します。

血管外来は第1、第3水曜日を予定しています。受診を希望の場合は事前に電話での予約をお勧めします。

主な資格

日本心臓血管外科専門医
日本外科学会専門医・指導医
日本脈管学会専門医・指導医
下肢静脈瘤血管内治療認定医

担当医；芹澤 玄

平成15年東北大学医学部卒業

平成23年東北大学医学部大学院卒業、医学博士

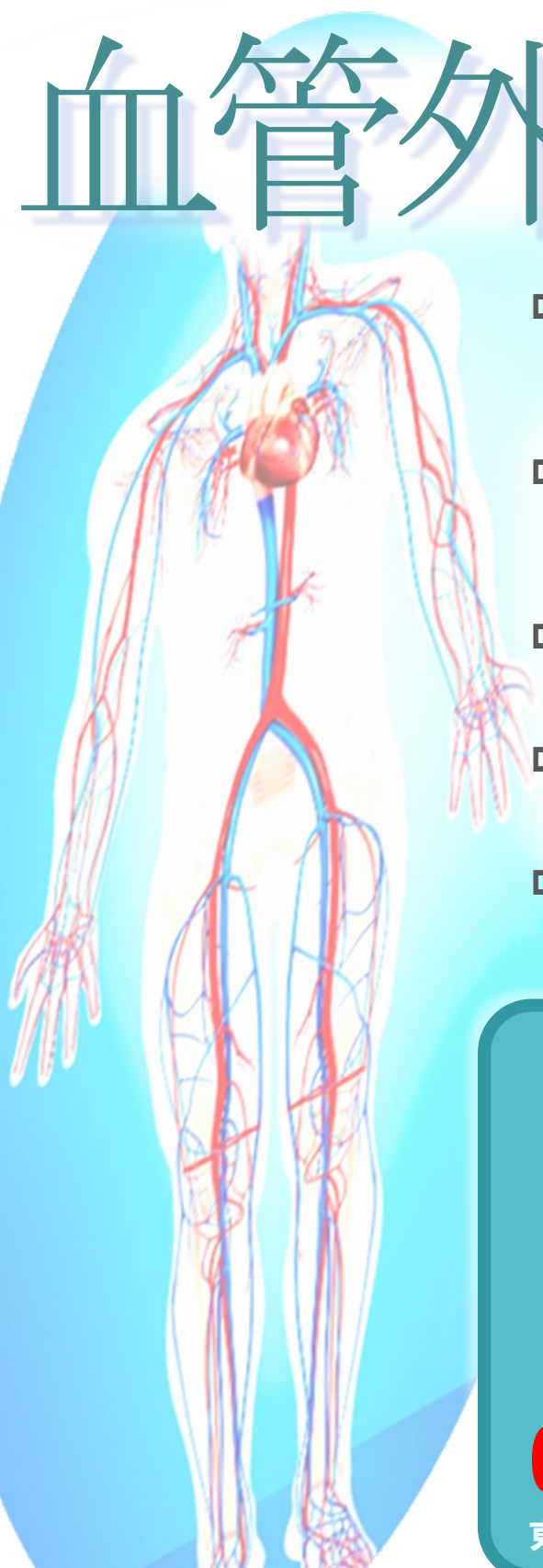
JCHO 仙台病院血管外科、気仙沼市立病院血管外科、石巻赤十字病院血管外科等で勤務

令和2年より東北大学病院総合外科（血管外科グループ）

動脈疾患・静脈疾患に
幅広く対応しています—

赤石病院

血管外科 外来

- 
- 腹部大動脈、腹部内臓血管、四肢血管、静脈疾患など多岐にわたる診療を行っております。
 - 塩釜・多賀城地区で唯一、下肢静脈瘤に対する血管内治療（レーザー治療）に対応しています。
 - 病気の診断に至らない場合でもご相談ください。
 - 外来日は第1・3週水曜日です。新患予約ダイヤルよりご予約ください。
 - **急患**は東北大学病院総合外科で随時受け付けております。医師直通電話におかけください。

新患外来へのご紹介

022-362-8131

「血管外来新患」
とお伝えください。

緊急対応を要するご紹介

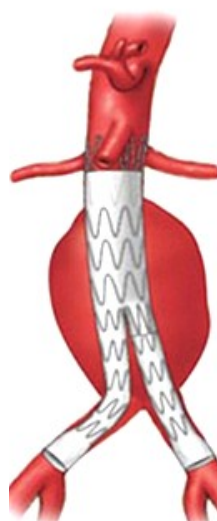
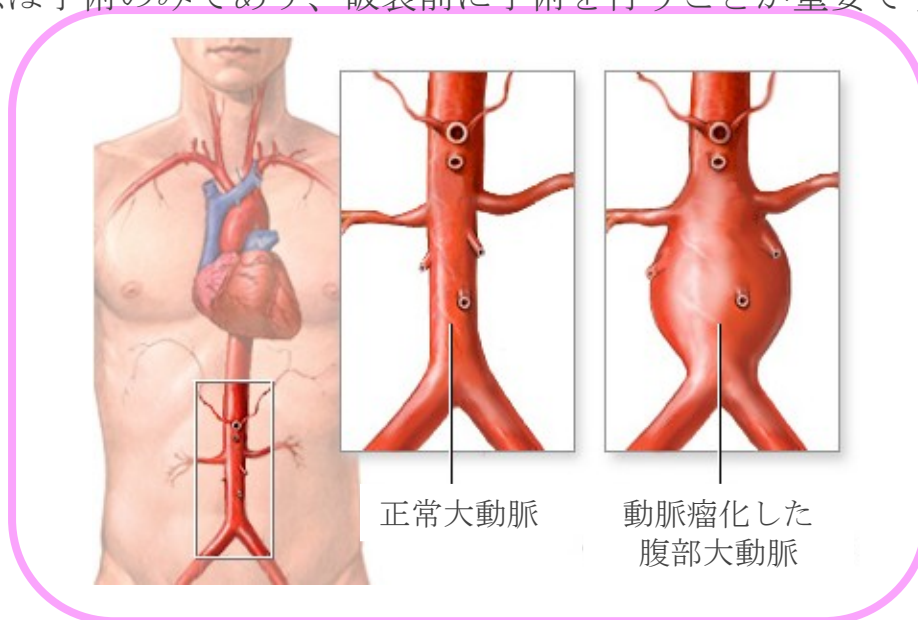
090-7532-6509

東北大学病院血管外科直通（24時間受付）

●腹部大動脈瘤

正常の腹部大動脈(直径15-20mm)が30mm以上に拡張した状態です。50mm以上になると破裂の危険性が高く、破裂時は約80%の確率で死亡します。

治療法は手術のみであり、破裂前に手術を行うことが重要です。



ステントグラフト治療

(血管内カテーテル手術)



人工血管置換術

(開腹手術)

腹部大動脈瘤の治療法は、体への負担が少ないステントグラフト治療と、長期成績に優れる人工血管置換術があります。東北大学総合外科と連携しつつ患者様の状態、希望に合わせて、より適切な治療法を選択しています。

動脈瘤患者様、もしくは疑いのある患者様はご紹介ください。

●動脈閉塞性疾患

急性動脈閉塞

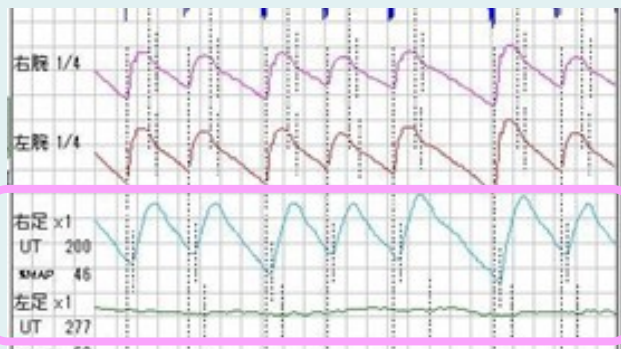
心房細動を持つ患者様に多く、突然の手足の疼痛・冷感・麻痺で発症します。足背動脈や橈骨動脈の触知が出来なくなります。緊急手術による血行再建が必要ですので、本疾患が疑われる場合は時間・曜日に関わらずいつでもご連絡ください。



手術によって下肢動脈より摘出された血栓

慢性動脈閉塞

基礎疾患に糖尿病、脂質異常症、高血圧症、喫煙歴、腎不全（透析）を有する患者さんに多い病気です。初期の症状は間歇性跛行ですが、進行すると足趾の安静時疼痛や壊疽を生じます。安静時疼痛や壊死を伴っている場合は早期の血行再建が必要です。以前は閉塞性動脈硬化症と呼ばれていた病態です。



上：ABI検査で左足の波形が消失している状態。

左：虚血により足趾の黒色壊死をきたしている状態。

急性・慢性の動脈閉塞性疾患に対し、血管内治療・バイパス手術のどちらでも対応可能です。急性発症の下肢の痛みや、間歇性跛行・安静時疼痛・壊疽の発生など虚血を疑う患者様はご相談ください。

○下肢静脈瘤



下肢静脈瘤は静脈弁不全により血液が逆流し、表在静脈が拡張して瘤となる疾患です。足のむくみ、重苦しさ、夜間の足の吊りなどが主な症状ですが、重症化するとうっ滞性皮膚炎(下腿遠位、内側の黒ずみ)や潰瘍形成をきたします。当科における下肢静脈瘤に対する治療は以下の3つを軸としています。

◆ 血管内焼灼術（血管内治療）

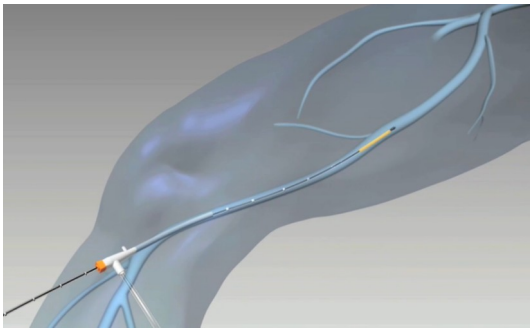
低侵襲かつ局所麻酔下で行えることが特徴です。傷が殆ど目立たず整容性にも優れます。

◆ 外科手術

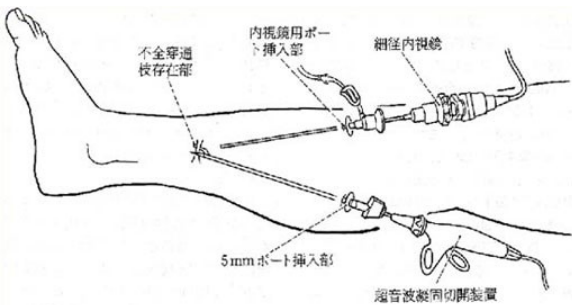
(静脈瘤抜去、不全穿通枝結紮など)
血管径が太く血管内治療の適応がない症例でも確実な治療効果が得られます。

◆ 鏡視下不全穿通枝切離術

全身麻酔下で行います。潰瘍や皮膚炎を併発した症例で適応となります。



血管内焼灼術 日本Medtronic株式会社HPより引用



鏡視下不全穿通枝切離術 「手術」平成12年8月号より引用

下肢静脈瘤に対し、血管内治療・外科手術のどちらでも対応可能であるとともに、うっ滞性皮膚炎やうっ滞性潰瘍を併発した患者様でも包括的に診療可能です。お困りの際はご相談ください。